

## 在宅取組型(保育園)

学校名等	洞戸保育園
実施日時	令和3年度 毎週木曜日～月曜日
会場	各家庭
参加人数	保護者28人 園児38人
学習課題(分野)	家族による絵本の読み聞かせ(家族の大切さ・思いやり)
運営者の願い	<ul style="list-style-type: none"> <li>園と家庭が願いを共有して共に読書に取り組むことで、子どもの心を豊かに育てたい。</li> <li>家族が読み聞かせを行うことで、家族と触れ合う時間をもってほしい。</li> <li>保護者が無理なく取り組める在宅での取組を大切にしたい。</li> </ul>

## 学習の内容

テーマ:絵本の読み聞かせを日頃の生活に取り入れ、親子の絆を深めよう!

## &lt;取組の背景&gt;

豊かな心を育てるため、洞戸保育園では保育活動の中で読書(読み聞かせ)を大切にしている。家庭での読み聞かせは長年伝統的に続けられている取組で、保護者にとっては気負うことなく取り組める慣れ親しんだ活動である。

## &lt;取組の流れ&gt;

- 毎週木曜日に、園児が園にある絵本を自分で1冊選び、保育園独自で作成した「絵本ノート」と共に持ち帰る。
- 週末を利用し、家庭で持ち帰った絵本の読み聞かせを家族(父母、祖父母、兄弟姉妹など誰でもよい)が行う。
- 読み聞かせをしたら、家族は読み聞かせをした時間や読んだ回数、読み聞かせを行った人や子どもの様子を「絵本ノート」に記入する。
- 月曜日に絵本の返却と共に「絵本ノート」を園に提出する。保育士は提出された「絵本ノート」にコメントを添える。



借りた日	6月3日
本の名前	ヘビが落ちたとき
返した日	7日
読んだ回数	5回
読んだ時	朝 帰ってから (夜 寝る時) その他 ( )
読んだ人	(父) (母) 祖父母 その他 (姉)
子どもの様子	ヘビが落ちたときに「なんでー?」と聞いてくる姿がとてもかわいかったです。風船みたいに飛んでいく所では、「すごーい!!」と拍手をして喜んでいました。 「ヘビくん、どうなったとおもう?」

## \*絵本ノート

- A4を2つ折りにした大きさと、年齢(組)ごとに表紙の色を変えている。
- 「借りた日」「本の名前」は、本の貸し出し時に保育士が記入する。
- 「返した日」「読んだ回数」「読んだ人」「子どもの様子」は家族が記入する。

## &lt;家族のコメント(絵本ノートより)&gt;

- 「どの乗り物になりたい?」と聞いたら「大変だからいやだ」と言っていました。内容をしっかり理解して自分の思いを伝えている〇〇くん、成長を感じますね!(読んだ本:「いちにちのりもの」 読んだ人:祖母)
- ヘビが落ちるたびに「なんでー??」と聞いてくる姿がとてもかわいかったです。風船みたいに飛んでいく所では、「すごーい!!」と拍手をして喜んでいました。(読んだ本:「ヘビくん、どうなったとおもう?」 読んだ人:父・母・姉)



## 無理なく家族みんなで

## 取り組める工夫

- 時間が取りやすい週末の4日間を家庭での読み聞かせ期間とした。
- 絵本ノートは1ページ A5サイズと小さく、記入項目の選択肢に〇をつけるだけだったり簡単なメッセージを書き込むだけだったり、記入への負担感を少なくした。
- 保護者だけでなく、家族の誰でも読み聞かせを行うようにしたことで、家族で共通の話題が広がった。



## 園の活動と

## 在宅取組をつなぐ工夫

- 現在、園で行っている保育活動に関連した本のコーナーを設置したり、家庭で家族と読んでほしい本を園児の目線に配架したりするなど、在宅取組を意識して子どもに本を選ばせる工夫をした。

